

道

～先輩が言っていたことを忘れないで、いま未来手帳に書き込むか、メモしておこう～



進路講演会「先輩の話を聴く会」を終えて～感想より～

7月5日の6時間目に春日丘高校、追手門学院高校、関西第一高校、関西大倉高校、槻の木高校の3年生の先輩方をおよびし、進路講演をしていただきました。短時間でしたが、受験や高校生活のようすなどを語っていただきました。その中から、一部紹介。

- ・ いままで高校はどんなところなのか、どのように勉強すればよいのかなど全くわかっていなかったけど、先輩たちの話をきけてあらかた理解することができ、**とても充実した時間でした**。進路について参考となる貴重な助言をいただきとてもうれしく思った。
- ・ 高校選びについて、まだ悩んでいるのでどうしようかなと思っていたけれど、先輩方のお話を聞いて、**自分の希望に合った高校を自分の中で条件を考えて見つけていけばいいんだな**ということがわかりました。
- ・ 「自分のモチベーションをあげる」ことが大切と話していた先輩の話が印象に残りました。このことから勉強する日数でなく、しっかり集中できるかどうかで高校が決まるとわかりました。
- ・ 私は最近、勉強のモチベーションが上がらなかったので、先輩の言っていた「絶対にこの高校に入ると言い聞かせる」ということをして、勉強に取り組みたいです。
- ・ オープンスクールで学校の印象が変わって志望校を変えたという話を聞いて、**オープンスクールや部活体験などで実際に行くことがとても大切だ**とわかった。
- ・ 自分の行きたい高校に行きたいって思うのは勝手だけど、行くためにはたくさん努力してがんばらないといけないな—と思った。**まだ間に合うから、本気で頑張ってみよう**と思った。
- ・ 成績はそれまでの積み重ねで、いきなりぐっとのびるから、それまでの**びないから諦めずに頑張**り続けようと思った。
- ・ 一生懸命勉強することも大事だけど、**自分に合う高校をしっかりと自分の目で見て自分の肌で感じる**ことが大切だと思った。これから、夏休みを使ってオープンスクールに行ったり、高校について調べて有意義な休みにしたいと思った。
- ・ 苦手教科を高校に入ってから頑張るのではなく、この時期から頑張って克服しようと思いました。
- ・ 流ちょうに自身の高校について紹介する先輩たちの姿をみて、高校受験に向けてエンジンをかけて早く先輩たちの背中に追いつきたいと思った。



～近々ある合同説明会一覧～

予約の有無や行き方などは、事前にホームページや案内のチラシなどで確認してから行ってください。

日付	時間	イベント名	場所
7/30・31	10時～16時	公立高校進学フェア	エディオンアリーナ大阪
8/10・11	9時～17時	大阪私立学校展	天満橋 OMM ビル 2F
8/20	13時20分～16時半	高槻島本地区公立高校合同説明会	高槻城公園芸術文化劇場北館
8/21	13時～16時	茨木地区公立高校合同説明会	クリエイトセンター
8/26	13時～16時	吹田摂津淀川地区公立合同説明会	メイシアター
9/2・3	未定	京都私立中学高校展	みやこめっせ 3F

先輩が語ってくれたことを忘れないように、そして今、夏休み前の「やる気」を忘れないように、この夏の目標を机の上にメモして貼ったり、手帳に書いておきましょう。もし、この夏休みに怠けそうになったら思い出してほしいと思います。

『一流大学出身』というハンデ

今までの日本は、^{しゅうしんこよう}終身雇用（一度入社した人は、よほどのことがない限り、企業はクビにしない）・^{ねんこうじょれつ}年功序列（年をとるにしたがって会社での地位や給料が上がっていく）が常識であった。だから、いい高校、いい大学へ進学し、一流大学卒業というブランドを身につけ、いい会社に入ればそれで一生いい生活ができた。ところが今、そういう制度が崩れ、^{せいどくず}実力主義の世の中になってきたという。企業は本当に仕事のできる人材を求めようになり、必ずしも有名難関大学出身者が、^{していこうせい}有能な人物とは限らないことに気づいたのだ。そこで、指定校制（うちの企業は〇〇大学出身者しか採用しませんという方針）を^{はいし}廃止し、入社試験の内容も、ペーパーテストの学力だけでなく、もっとほかの見方をする企業が増えてきた。具体的に言えば、どこの学校を出たかは問題にせず、そこで何を学び、何をやってきたのかを問うようになったのだ。

それについてはこんな例がある。ある会社では一流大学出身の新入社員に対して、次のような話をしたという。「おそらく君たちは一流大学へ進学するために、一生懸命勉強してきたであろう。その努力は^{とうと}尊いものだ。しかし、そのかわりに大切なものを^{ぎせい}犠牲にしてきたことも事実だ。しんどいクラブ活動を^{けいえん}敬遠し、人のために働く委員会活動にも^{しょうきょくてき}消極的で、時には当然の義務である掃除をさぼって勉強に打ち込んできた人もいるのではないか。今の会社はそのような人物は求めてはいない。時には人の中心となり、時には人の^{かげ}陰に回り、仲間とともに仕事を進められる人材が必要なのだ。『たとえ失敗しても、もう一度あの人と一緒に仕事がしたい。』と、人から思われるような人間性をもった人物がほしいのだ。君たちは一流大学出身という^{じふ}自負を持ってこの会社に就職してきたことであろう。しかし、そのことが会社ではハンデになるということを知ってもらいたい。君たちがこれからこのハンデを克服していくことを期待する。」

これは嘘のような話だが、事実あったことだという。中学3年生の君たちは、今、自分の進路決定のためにいろいろな思いを持っていることだろう。しかし、どこの高校へ入るかということが問題なのではなく、そこで何を学ぶか、何をすることが問題なのだということを知っておいてもらいたい。

最後に、こんな話も聞いたので紹介しよう。

ある超一流と言われる大学を出た人が卒業式の日、「お父さん、お母さん、今日〇〇大学を卒業し、これであな方への義理は果たしました。明日からは自分のやりたいことをやっています。」と言って、翌日から^{ふくしよく}服飾の専門学校に入学し、中卒・高卒の人と肩を並べて勉強したという。

世の中は確実に変わってきている。



このお話の最後にある「卒業式の日の話」と同じような話を、別の先生からも聞きました。別の先生の話では、大学を卒業したあと音楽関係の学校に入りなおした人もいたそうです。